

うつくしま☆ふくしまin京都 2017年度活動報告書



<http://fukushimakyo.to.namaste.jp/>
<https://utukushima.exblog.jp/>

うつくしま☆ふくしまin京都一避難者と支援者のネットワーク

〒612-0066 京都市伏見区桃山羽柴長吉中町55-1

コーポ桃山105 市民測定所内

e-mail : rentai@s3.dion.ne.jp

tel : 090-8232-1664 (奥森、夜間のみ)

うつくしま☆ふくしまin京都 —避難者と支援者のネットワーク 2017年度活動報告

I 当会の目的、活動内容

2011年4月に、当会スタッフの一人が福島県会津若松市に開設された避難所の運営支援に参加したことをきっかけに、京都府内に多くの方が避難してきていることを知った。そして、避難者の多くは京都府内に知人もなく孤立している状況にあることがわかり、同年5月から避難者同士、避難者と支援者の交流とネットワーク作りを始めた。

本会は、東日本大震災、福島第一原発事故により京都府内に避難してきた家族が、避難先で当たり前の生活をする事ができるように支援していくことを目的に結成され、以下の活動に取り組んできた。当会の活動をはじめから7年が経過しようとしているが、広域避難者を取りまく状況はますます厳しくなっており、避難の継続・移住生活の安定にむけた多面的なサポートが必要である。

- 1 避難者同士、避難者と支援者が交流できるイベントの開催
- 2 避難生活の様々な問題を相談できる相談サロン「ほっこりカフェ」の毎月開催と週一回の「避難者相談窓口」（電話・来所相談）の実施
- 3 いのちとひなん生活をまもる京都（民間）公聴会を開催し避難者が求める支援策をとりまとめ、国や福島県、避難先自治体と話し合いを行う
- 4 「避難者こども兼行相談会きょうと」の参加団体として、低線量被ばくによる健康被害に関する相談会やセミナーを開催
- 5 原発事故による放射能の影響のある地域で生活している家族に対する保養事業の実施
- 6 福島の実状を正しく理解するために「福島の今を知る」交流会を実施
- 7 避難世帯の中学3年生が希望する高校に進学するための学習講座の開催
- 8 市民に支援を呼びかける活動

II 避難者支援活動の課題

- 1 放射線被曝による健康被害を回避するため、避難生活の継続や移住を決断している避難家族も数多くいるため、避難先での安定した生活の確保にむけた多面的な相談・支援が必要である。
- 2 長期化する避難生活の中で孤立しがちな避難家族もいることから、避難者同士、避難者と地元住民の交流を図ることが必要である。
- 3 原発事故避難者の中には、放射線被ばくによる健康被害・健康不安を抱えている方も多く、放射線被ばくによる健康影響について正しい知識を身につけ、健康管理に役立てることが必要である。
- 4 国と福島県は避難用住宅の無償提供を2017年3月末で打ち切り、県独自の支援策に移行した。京都府・市は「入居日から6年」の無償提供を維持し、京都市は、継続入居を希望する避難世帯に対して有償での入居継続（市営住宅への正式入居）を認めた。京都府は、2019年3月末を限度に有償での継続入居をみとめ、1年目支援策として家賃の半額補助を実施し、2年目支援策としては、収入に応じて10%、35%、50%（最低家賃5,000円）を補助するとしている。
福島県の支援策も、避難先である京都府の支援策も2019年3月末限りとなるため、安定した住まいの確保のために引き続き取り組んでいく必要がある。
- 5 長期化する避難生活を守るために、避難者が必要とする支援・援護施策をとりまとめ、国や福島県、避難先自治体と意見交換を行う事が必要である。
- 6 福島への帰還を考えている避難世帯が、福島の実状を正しく知るための活動が必要である。
- 7 避難世帯の中学3年生の中には、高校進学にむけた学習支援が必要な児童がいる。
- 8 市民に原発事故被災者の実情を知らせ、避難者への支援・連帯を呼びかける活動が必要である。

Ⅲ 2017年度の活動のまとめ

1 避難者交流イベント

京都府内に避難している避難者同士、避難者と地元市民の交流をはかるために、次のイベントを開催した。

(1) 2017年4月1日(土) 第4回桜まつり&交流会

場 所 桃山東合同宿舎集会所

参加者 避難家族と地元の支援者合わせて約40名が参加。

(2) 2017年7月28日(金) 第3回木津川バーベキュー交流会

場 所 京都府南部共済住宅周辺

参加者 避難家族と地元支援者を合わせて約30名が参加。

2 避難者相談サロン「ほっこりカフェ」の開催

避難者が多数居住している京都市伏見区内で、有資格者の相談員が主催する「ほっこりカフェ」を開催し、避難者の交流、相談を実施した。毎回、7~10名の参加があった。

●相談員 高木久美子(資格:生活困窮者自立支援相談員)

- ・2017年4月19日(水) 参加者7名
- ・2017年7月26日(水) 参加者8名
- ・2017年9月20日(水) 参加者6名
- ・2017年11月22日(水) 参加者7名
- ・2018年2月28日(水) 参加者8名
- ・2017年6月21日(水) 参加者9名
- ・2017年8月30日(水) 参加者10名
- ・2017年10月25日(水) 参加者7名
- ・2018年1月31日(水) 参加者9名

3 避難者相談窓口の開設

選任の相談員を配置し、週1回(基本は水曜日)の「避難者相談窓口」(電話・来所相談)を実施した。2017年度は年間延べ46件の相談があった。内訳は、電話18件、メール3件、来所20件、家庭訪問5件となっている。

*相談実績は、別紙「2017年度電話・来所結果一覧」を参照のこと

4 ひなん生活と住まいの安定を求める取り組み

(1) ひなん生活と住まいの相談会

京都府の2年目支援策についての説明&相談会を開催し、6名が参加した。

- ・2017年12月9日(土) 14:00~16:00 京都・市民放射能測定所(会議スペース)

(2) 京都府災害支援対策本部との話し合い

無償提供終了後の京都府の1年目支援策についての課題共有と2年目支援策の実施にむけた話し合いを行った。

- ・実施日 4月25日、8月15日、11月13日、12月15日
- ・実施場所 南部共済住宅内
- ・入居後6年の無償提供終了後の京都府支援策については、別紙参照のこと

5 「避難者こども健康相談会きょうと」の取り組み

当会が団体参加している「避難者こども健康相談会きょうと」は、年2回の健康相談会と講演会・セミナーを開催している。当会は参加団体として講演会、セミナーの運営を担っている。講演会・健康セミナーでは、チェルノブ原発事故後の健康被害の状況や、放射線被ばくによる健康影響について科学的な知見を深めることができ、避難世帯の健康管理に役立てることができた。

(1) 菅谷昭さん(松本市長)講演会 2017年7月1日(日) 龍谷大学 参加者約70名

- ・避難者のお話(Sさん)
- ・講演 原子力災害による健康および環境への長期的影響

—チェルノブイリ31年、福島6年が経過して—

講師 松本昭さん（松本市長、医師）

(2) 第10回健康相談会・セミナー 2017年11月26日（日）聞法会館 参加者約40名

・講演 福島の小児甲状腺がん、周産期死亡について、線量について

講師 山本英彦さん（医師・医療問題研究会）

・講演 乳歯をとってにおいてストロンチウム90を調べましょう

講師 松本英介さん（岐阜環境医学研究所長・医師）

6 「福島の今」を知る交流会

(1) 福島と京都をつなぐ親子交流会 2017年8月20日（日）顕道会館 参加者 親子で約40名

「避難者こども健康相談会きょうと」（当会は団体参加）が、さぼーと紬やNPO 法人和、笑顔つながろう会などと協力して実施した6日間の短期保養事業の中で、「福島の今を知る」ことを目的に親子交流会を開催した。

・福島県などから参加したお母さん（6名）を囲み、交流・意見交換を行った。

また、ミニ「地藏盆」を行い、福島と京都の子どもの交流を行った。

(2) 原発事故から6年、福島の今を知る交流会 参加者約20名

2017年12月6日（日）18:30~20:30 京都市呉竹文化センター・会議室

・スライド写真とお話 飛田 晋秀さん（福島県三春町在住の写真家）

今なお避難指示が出されている地域や解除された地域の写真を見ながらお話を聞いた。

7 避難世帯の中学3年生を対象とした高校受験勉強会

(1) 実施日時など

・講師 吉田耕平（大学非常勤講師） 講師補助（見守り）：上野益徳（当会スタッフ）

・受講生 4名（男子2名、女子2名）

・実施日 計21回

7/23、30、8/14、15、16、9/9、10、23、10/9、29、11/23、12/17、24、28、1/5、13、21、27、28、2/4、24

(2) 工夫と成果等（講師から）

ア 実施上の留意点

参加した子どもたちの環境に留意した。京都で過ごしてきた環境に応じて、一人一人の勉強環境は異なる。実際、自分だけの勉強部屋を持ってない場合や、塾に通えない場合があった。また部活やクラブチームに力を注いできた場合もあった。こうした環境が、勉強の得意不得意や進捗、自己学習の習慣に影響していた。そこで、無理に一律のペースで勉強会の予定を進めないように留意した。また、勉強の内容がどう面白いのか、何に役立つのか、感じてもらえるように心がけた。

ただし中3生は、11月の末あたりから、焦り始めたり、投げやりになることがあり、人間関係までが不安定になる場合がある。個々人のペースで(のんびり)勉強していると感じてしまうと、勉強のモチベーションも下がってしまう。そこで、入試本番に間に合うように(寄り道せず足踏みせず)力を付けていることを、実感させて安心させる必要があった。

イ 工夫した点

そこで勉強会では、勉強のペースが遅い子でも着実に最低限の力を付けられるための工夫を考えた。また、勉強のペースが速い子にとっては、応用問題に正確に回答できるようになる基礎的な力を伸ばせるような工夫を付け加えた。

具体的には、数学の関数と英語の構文に力点を置き、そのなかから「今月はこの単元をマスターしよう」と小目標を掲げて進めた。この際、問題集を順に進める方法を避け、一つの単元をプリントで配布し、「これだけ終わらせればこの単元はマスターできる」と説明。このプリントの中に、中1で習ったはずの非常に基本的な事柄（比例や三単現）の復習問題から、高校受験で頻出の実践問題を含めるように努めた。

この場合、プリントを進めるにつれて、分からない点が必要出てくる。そうした点については必ず自分で質問を考えるように促し、質問に対してはヒントを与えるようにして、可能な限り、自分

で回答に辿り着けるように努めた。この際、一人一人の理解力を図りながら、ヒントのレベルを下げたり上げたりして、一人一人のペースに合った勉強ができるように心がけた。

そのうえで、2ヶ月に一度程度、受験のゴールから逆算して現時点で勉強がどのくらい進捗しているのかを話し合い、本人がやりたい勉強法を考えてもらって、あるていど個人でペース管理することで、子どもたちが自分でモチベーションをコントロールできるようにも工夫した。

このため、12月中旬までは4人の中3生を2人ずつに分けて、別々に勉強会を開いた。

ウ 得られた成果

上記のスタイルに慣れるまでの間は、勉強の量と質が直ちに上がるわけではなく、学校の定期テスト等の成績アップに直結しない。そこでまず、定期テスト前は学校の勉強についてもサポートをして、最低限の成績を維持できたと思う。

そうして、勉強の成果を感じさせながら、モチベーションを維持させて、基礎力を付ける勉強法に辛抱強く取り組んでもらった。通い始めてから4ヶ月ほど経つと、質問を通じて思考力を身につけるスタイルに習熟してきた。そうすると、質問・ヒント・解き直しという循環が早くなり、各人の勉強のペースが上がった。さらに、勉強を面白く感じられる子もいた。

10月初旬の中間テストと12月初旬の期末テスト、1月末の期末テストで、学校の勉強については各自が進められているようだったので、1月の勉強会は全て入試問題の回答と解説にあてた。入試問題を解くことで、勉強会で扱わなかった単元（数学の図形や英語の会話文）の説明を補えたので、本人たちは、だんだん自分で問題を解けるようになったので、あとは各自のペースでどんどん過去問を解くようになった。

1月以降、過去問の解説については4人で同時に勉強会に参加したので、おれは何点だった、〇〇くんはどうだった、などと聞き合い、教え合う場面も見られた。本人たちとしても、ほどよい競争感覚の中で、勉強できたように思う。

また、この間に4人の仲も良くなり、休憩時間の会話などで、震災の経験を振り返り、京都へ来た経緯がそれぞれであることを互いに知る機会もあった。このことが、自分たちの生活のこれまでのあゆみとこれからの将来について話し、共に考える機会になったことは、この勉強会を通じて得られた成果の一つと言える。

エ 受講生の感想

◆Aさん

同世代の人と勉強するから話しやすいし、国・数・英を重点的にやるので、苦手の英語が少し良くなった。分からない問題などを教えてもらったけど、分かりやすかったです。

勉強以外にも色んなおもしろい話や地震の話、関西弁と東北弁のことなど楽しいのもあれば、共感するのもありました。最後に一つ。本当に楽しかった。

◆Bさん

この勉強会があったことで、勉強をする習慣ができました。そして勉強会では分からない問題を先生がわかりやすく教えてくださいました。

毎回出される課題は難しく大変だったけど、頑張って提出しました。その結果、公立高校に合格することができました。本当にありがとうございました。

◆Cさん

私はこの学習支援のおかげで、併願校である私立に合格し、第一希望である公立高校に前期で合格することができました。私は塾に通っていないこともあり、勉強方法が分からなかったり、塾に通っている友達や同学年の人から遅れをとっていた部分がありました。しかし、学習支援での吉田先生の熱心な指導によって、今まで理解できなかった範囲を理解することができたり、たくさんの問題にふれることで入試への自信になりました。

また、この学習支援でできた友達と共に学ぶことで、勉強の意欲があがり、入試勉強がはかどり、一人ではない、という心強さに繋がりました。

私は、学習支援で先生や他のメンバー達と一緒に学ぶことができたから受験をのりこえられたのだと思い、この学習支援はとても良い支援だったと感じています。次の受験生も、この支援を受けて受験をのりこえてほしいです。

◆Dさん

昨年の夏からの半年間、本当にお世話になりました。、みんなと一緒に勉強できて、とても楽しかったです。高校も自分が行きたい学校に行けたので、悔いもなく、無事に終わることができて、とても良かったと思います。

先生の授業はとてもいいで、分かりやすく、また楽しく聞くことができました。1つ1つの問題を時間をかけて解説してくれたり、付せんを貼って間違いをていねいに正してくれたことがとても良かったと思いました。

受験も終わり、あまり会う機会は少なくなっていますが、これからも自分なりに勉強をし、3年後の大学受験も頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

8 市民に広く情報を知らせる活動

(1) ホームページでの情報発信

- 業者委託により、実施事業について当会ホームページでイベントの情報発信をおこなった。

うつくしま☆ふくしま in 京都 ホームページ <http://fukushimakyo.namaste.jp/>

【成果と課題】

- (1) 避難者と地元市民の交流と相談の場である「ほっこりカフェ」は、毎回7～10名の参加があった。継続して開催することで、避難者の「駆け込み寺」のような存在となっている。
- (2) 専任の相談員による「避難者相談窓口」を週一回程度開設した。電話による相談だけでなく、来所や家庭訪問による相談も増加してきた。深刻な相談や継続的な相談も増加している。避難者に対する案内・告知をより積極的に行うとともに、関係機関とのさらなる連携が必要である。
- (3) 国と福島県による避難用住宅の無償提供の終了後も、避難者の住まいの安定を求めて、避難先自治体である京都府との話し合いを行ってきた。京都府として、無償提供終了後1年目に加えて、2年目についても独自の支援策を実施するという回答を得ることができた。
- (4) 今年度は、京都新聞社会福祉事業団福祉活動助成、京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金、京都木津川マラソン復興支援、こんどプロジェクトから助成を得ることができたが、事業規模の拡大により支出も増加しているため、財政的には苦しい状況である。会員の拡大を始め会の独自財源づくりが大きな課題となっている。

うつくしま☆ふくしまin京都—避難者と支援者のネットワーク 2017年度決算(期間2017年1月1日～2018年3月末)

* 事業年度変更に伴い15ヶ月予算となっています！

1. 収入の部

2018年3月31日 現在

費目	今年度予算	今年度決算	増減	備考
繰越金	3,201	3,201	0	前年度からの繰り越しはなし
会費	20,000	20,000	0	会費一口1,000円×20口
参加費	200,000	50,900	-149,100	報告会参加費5,500円、桜祭まつり19,500円、木津川バーベキュー14,500円、福島の今を知る交流会11,400円
寄付金	400,000	231,324	-168,676	団体・個人からのカンパ
助成金等	1,199,000	2,017,000	818,000	京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金(2016年度539,000円、2017年度概算払200,000円)、京都市市町村振興協会(38,000円)、京都新聞社会福祉事業団・運営助成(2016年度100,000円、2017年度200,000円)、京都木津川マラソン(2016年度20,000円、2017年度20,000円)、京都府共同募金会(2016年300,000円、2017年度300,000円)、こんどプロジェクト300,000円
その他収入	5,000	1	-4,999	利息など
役員負担	50,000	50,000	0	年度初めの運営資金として
借入金	0	21,550	-21,550	不足分を代表から借入れ
合計	1,877,201	2,393,976	-516,775	

2. 支出の部

費目	本年度予算	今年度決算	増減	備考
報償費	850,000	743,500	-106,500	ほっこりカフェ、電話・来所相談・家庭訪問 相談員謝礼、公聴会講師謝礼・交通費、健康セミナー講師謝礼・交通費、中学3年生勉強会講師謝礼(年間20日程度、2017年1月～3月分を含む)
事務局等旅費	120,000	0	-120,000	* 執行なし
使用料	80,000	34,662	-45,338	イベント会場費、レンタルサーバー料金、駐車場料金
食糧費	30,000	43,341	13,341	飲食模擬店の材料費、飲料費
消耗品費	30,000	70,289	40,289	事務用品、イベント関係消耗品、中3勉強会教材費6,392円
印刷製本費	50,000	591,456	541,456	公聴会パンフ211,464円、健康相談会パンフ、イベントチラシ印刷費など
通信費	40,000	94,048	54,048	郵送費等
委託料	77,000	77,000	0	ホームページ作成・運営費 開設時(27,000円)、年間契約(50,000円)
書籍・映像資料購入費	10,000	0	-10,000	* 執行なし
備品購入費	93,000	168,600	75,600	パソコン46,000円、プリンター102,600円、冷蔵庫購入分担金20,000円
家賃	150,000	150,000	0	共同事務スペース使用料(月額10,000円×15月)
返済金	320,000	320,000	0	前年度借入金320,000円を2017年度で返済
その他の支出	24,000	101,080	77,080	関係団体への助成金、健康相談会50,000円、振り込み手数料1,080円
次年度繰越	3,201	0	-3,201	
合計	1,877,201	2,393,976	516,775	